

は之を論議して切けなからん。されども此論議は私
安に在りて論議なり若し時宗をして明治年間在らしめ
魯英の使節を斬るは明倫の人の時宗の義舉を慕ふ
て其義に倣ふとあらば如何ん、之を狂暴と云はざるを
得ず均しく外國の使節を斬るとなるに古は之を以て義
と爲し今は之を以て狂と爲すは何ぞや時勢の沿革なり
文明の前後なり都て時代と場所とを考への外に舎くど
きは何事にも便ならざるはなし何物にても不便利な
らざるはなし變通の道とは正に此處にある者なり
福澤氏が立論の趣意は右の如し是に由て之を觀れば氏
は楠公を知らざる者に非ず之を知るも或は世の識者
よりも詳ならん然り而して近日紛紜の論議を生ずる
所以は未だ互に其兩端を擧さずして論の極度を以て相
接すればなり蓋し世の新聞記者家の如きは愛國の義氣
固より盛なる者とは雖も其外國交際の際を視るも
氏が如く切ならず國の獨立を謀るも氏が如く深から
ず時勢の沿革を察するも氏が如く詳ならず事物の
輕重を量るも氏が如く明ならずして遂に枝末淺
の議論に陥りたるものなり思ふに福澤氏は世論の
しさを恐れずして却て我日本國內の議論未だ高尙の域
に達せずして其近淺なるも此度の論議の如きものあ
るを憂ふるもどならん

社説

政府の立脚地

縦横に策略を施らし八方に愛嬌を賣りて巧に人心を
籠絡せんとするは才子の事にして細中に暗着せず大體
に決断するは武人の長所なり今の政府を見るに策士も
あり才子もなきに非ざれども其柱石たるものは武人に
して自から文思に乏しきものとれば秘密なる細工は其
長所に非ず得意とする所は寧ろ活潑果斷に在る可し而
して今の時勢は恰も第二の維新にして退ては行政を改
革し進んで新事業を經營せざる可らず此間に最も必
要なるものは決断なり行政整理とは從來の仕來りを改
め人物を入れ代へて事務を敏活にするの謂ならん然る
に其仕來りを改め人物を入れ代へんとすれば苦惱も生
ず可く故陣も起る可し即ち勇氣を要する所以にして是
れを以て何れの政府も改革を思はざるに非ざれども何時
も若し其功を奏せざりしは畢竟改革其物の難きに非ず
して決断に乏しきが爲めなり増補の如きも其必要は既
に世人の認むる所にして最早や説明を要せず要する所
のものはい實行の一事のみ其他餘餘問題と云ひ交通
機關の改良と云ひ利害の存する所は明白にして只實行
の勇氣はへれば功を奏す可きもの少なからず然るに
今當局者實際の舉動を見るに往々不決断の失敗なきに
非ず臺灣施政の改革の如き其著しきものにして爲めに
一般の信用を失ひたるも一方ならず提督の地として
同様に勉任したる現任提督は今は辭職の念切なりと
云ふ然かのみならず政府は時に小政略を施して人氣を
損するもどあり例へば今回の政變に付政黨出身の官吏
を處分するに辭業の提出を待たず強ひて死罪したるが
如き實例は云へば云ふもの事ろ大人氣なき仕打
にして放縦主義を以て立つ可き政府に不似合のものと
なり蓋し幕内小策士輩の細工に出でたるものならん然れ
ども又時として此意の決断を斷するもどあり進歩黨

と絶ちしが如き是れなり公同會は四十名に過ぎず自由
黨、國民協會は舉て賛成す可きに非ず進歩黨を絶てば
困難に遭遇す可きは分り切たるものと然るに敢て
斷じたるは兎も角も勇斷と云はざるを得ず要するに政
府の舉動は硬軟定まらず勇法一ならざるが故に世人も
自から迷ふもどなれば自家の特色は活潑果斷に在りど
覺悟して一直線に進行す可きのみ時は果斷を要し政府
は其性從に於て果斷たる可き者なり前途立脚の餘地な
しと云ふ可らず假令又政府が果斷の爲めに踉蹌すると
ありとするも尙は無爲にして自滅するに勝るや萬々な
る可し一進一退は政治家の常なり要は只一たび失敗す
るも再び回復するに在り然るに何事をも爲さずして失
敗するは恰も肺病を患ふるが如くにして回復容易なら
ざるに反して活潑果斷の爲めに踉蹌するは猶ほ金創の
如し速に快癒するの例なれば退て自滅せんよりは寧ろ
進んで失敗する方、後の爲めにも得策なれ我輩の毎度英
斷を促す所以なり

慶應義塾學生の發火演習

十四日の未明幾月尚ほ西天に掛かる時に當り我輩せる
幾多の學生は三々五々構内の運動場に集りて縛と焚き
三田の山上時ならぬ光景を現出せり此處に赴き
しときは未だ六時に達せざりしも集る者既に二百の上
に出で剣を抜き銃を抜き軍路を談する年少氣銳の士は
何れも皆自分允許の大將連のみにて之を統御する隊長
の勞苦先づ思遣られて可笑しかりし六時半には四百以
上の學生は所屬隊長の命に従ひて整列し教官山道歩兵
少尉は騎馬にて之を統率し隊伍整々道と品川に取り大
森に向て出發せり途中南北兩軍に分れ兩軍其行く處を
奪にせす斯の如くにして戰爭は將に開始せられんとせ
り今此方略を示せば左の如し

南軍校隊想定

- 一 關東原野の報告に於て敵は中越及小山村附近に於て我軍を防
止せんとするものなり
- 二 敵は小山及中越村附近の敵を撃破して東京城に進入せんとす
三 敵は品川附近の敵を撃破して品川に進入せんとす
- 三 敵は品川附近の敵を撃破して品川に進入せんとす

北軍校隊想定

即ち敵の混成旅團は東京城を占領せんが爲め十三日に
於て川崎附近まで進軍し來り此處に旅團司令部を置き
十四日愈々其目的を達せんとしたれども東海道線は右
は海に面し左側は開闢地伏し我軍は此間に或は砲列を
布き或は歩兵を伏せ守備せらるるなく我軍より浦さん
か隊の側面を攻撃せらるるも明かにして到底防禦な
きを曉り浦上の山腹を迂回し左方に向ひ中庭村及び小
山村の敵を破りて進むもどに決したるものと見えたり
之を防禦する我軍は旅團司令部を品川に設け専ら其
噴止策に忙はしく品川驛より馬込村に通ずる方面は殊
に警戒を嚴重にすべき必要あるを以て前記の如く校隊
長に命令せしものなり當日の戰爭は即ち南北兩校隊の
衝突に於て此命令に接したる我軍の校隊長は既に左の
命令を傳へたり

校隊命令

- 一 東京に侵入するの目的を有する南軍は優勢なる砲兵を得て時夜川
二 敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
三 敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
四 敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
五 敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
六 敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一

敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一
敵は品川驛より馬込村に通ずる道路上馬込村(品川驛二分一